

土木学会論文集

土木学会は研究成果を、学術論文集として発行しています。現在、8分野、19分冊が刊行され、厳しい審査を通過した論文が刊行されています。2017年度には和文論文集に209編、英文論文集に33編が掲載されました。

8分野 **19**分冊 **242**編

<https://www.jsce.or.jp/collection/index.html>

土木学会は2001年に「土木技術者資格制度」を創設しました。特別上級・上級・1級・2級土木技術者の4つの資格について、認定技術者の審査と登録を行なっています。この資格は国土交通省の「公共工事に関する調査及び設計等の品質確保に資する技術者資格」に、47施設分野で登録されています。認定技術者は5年毎の更新制であり、更新には所定の継続教育（CPD）の記録が必要です。2018年現在3,961名が登録されています。



登録施設分野 **47**
認定技術者数 **3,961**

<http://committees.jsce.or.jp/opcet/shikaku>

Facebook フォロワー **31,452**人

新聞掲載数 1,350件 (2017年度)

Facebook 最多いいね! 1,355件 (2018年1月)

Twitter フォロワー1,632件 (2018年4月)

ウェブサイト 平均 730,622 月間PV (2016年度)

2015年に設置された「土木広報センター」を中心に、報道機関との懇談会や日々の情報発信が行なわれています。また2016年度には図書館委員会がオンライン博物館「ドボ博」を開館しました。



<http://www.dobohaku.com>



2017年度 調査研究部門 行事実施状況

行事数 **181**回

講演数 **4,136**題

参加者数 **20,814**人

土木学会には、調査や研究を目的とした調査研究部門があり、29の委員会が設置されています。各委員会は、研究発表などの行事を開催しています。2017年度は181件の行事が開催され、4,136件の研究発表があり、20,814名が参加しました。



水インフラ更新小委員会シンポジウム

数字で見る土木学会

2019年1月31日現在

公益社団法人 土木学会 / Japan Society of Civil Engineers
企画委員会 & 土木広報センター
TEL: 03-3355-3448, cprcenter@jsce.or.jp
〒160-0004 東京都新宿区四谷一丁目外濠公園内
<http://www.jsce.or.jp>

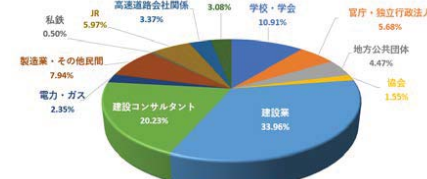


個人会員

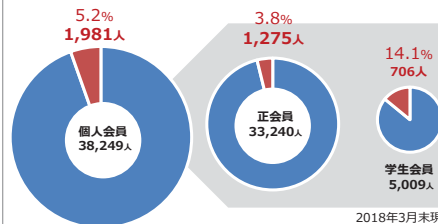
3.8万人

法人会員 **608**

特別会員 **473**



正会員（個人）の業種別構成



2018年3月末現在

女性会員は1,981人 **5.2%** 20年で **3.9**倍

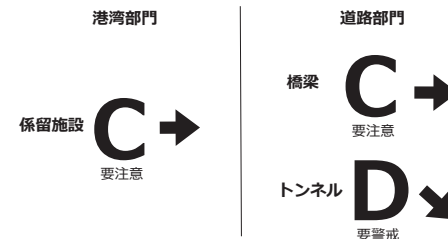


8支部



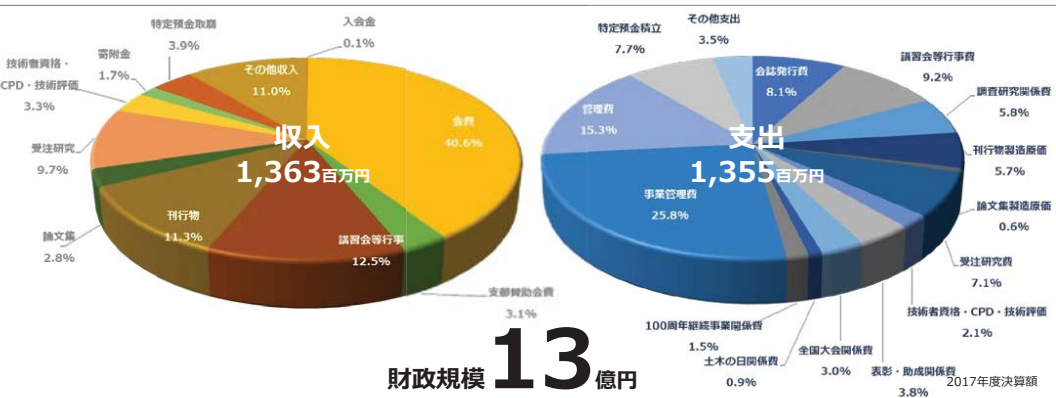
2018年3月末現在

2018インフラ健康診断書（試行版）の公表



土木学会は第三者機関としてインフラの健康診断を行いました。結果を公表し解説することにより、インフラの現状を広く国民のみなさんが理解し、インフラの維持管理・更新の重要性や課題を認識していただくことを目的としています。

<http://committees.jsce.or.jp/reportcard/>



394 選奨土木遺産

土木学会では毎年、土木施設を選奨土木遺産として選定しています。土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木建造物の保存に資することを目的として2000年度に始まり、全国各地に認定施設があります。



静岡県沼津市 御成橋

	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	四国	西部
河川・海岸	5	6	18	11	5	8	2	8
ダム・砂防堰堤	2	3	11	4	2	4	2	4
橋梁	10	8	38	19	26	9	10	18
道路	2	2	10	3	4	2	2	3
鉄道	6	3	13	3	17	4	4	5
トンネル・隧道	2	1	10	6	9	1	2	4
港湾	7	3	4	1	1	1	1	3
上下水道	4	4	14	5	2	1	1	5
発電	6	0	7	4	3	1	1	1
灌漑施設	0	5	3	3	4	1	0	3
その他	4	5	8	2	4	9	3	4

支部、施設種別一覧 ※1 複数に種別される施設も存在 ※2 海外にも存在 (ダム1, 上水道1)
<http://www.jsce.or.jp/contents/isan/2018.shtml>

海外との交流も土木学会の仕事の一つです。

2004~2017年度の間に、39回のジョイントセミナーを開催し、合計229名を派遣しました。2017年度は、ベトナムとの間でジョイントセミナーを開催しました。



Workshop for Young Civil Engineers (全国大会 九州大学福盛財団記念館, 2017)

39のジョイントセミナー 229人を派遣 海外在住会員 176名



100人/団体に14の賞

1914年に創立された土木学会は、1920年から、功績のある事業、人を表彰してきました。現在では14の賞があり、2017年度は100人/団体が受賞しました。

功績賞、技術賞、論文賞、吉田賞、吉田研究奨励賞、田中賞などは1960年代にはすでにあり、これまでに数多くの受賞者を生んできました。これらの賞を受賞することは、土木学会の会員にとっては大変に大きな名誉です。

<http://www.jsce.or.jp/prize/index.shtml>



2017年度に受賞されたみなさん

2017年度 災害調査団

252人

土木学会では、国内外を問わず大災害が発生した際に、発災後ただちに災害対策本部を設置し調査団を派遣して、専門的調査を行い、学術的、技術的見地からメカニズムの解明と防災上の提案を行っています。

東南アジアを中心とする海外へは、1999年から2017年の間に、36回、延べ386人の調査団を派遣しています。2016年の熊本地震の際は、会長特別調査団をはじめ、多くの委員会が調査団を派遣しました。また、2017年は九州北部豪雨災害に延べ52名の調査団を派遣しました。

<http://committees.jsce.or.jp/report/>



九州北部豪雨災害調査団の活動



2017年度に発行した書籍

16点

設計時の基準となる「示方書」や、様々な書籍を発行しています。



“11月18日は土木の日”

土木学会では、「土木」の2文字を分解すると「十一」と「十八」になること、土木学会の母体となった「工学会」の創立日が明治12年（1879年）11月18日であったことから、11月18日を「土木の日」と定めています。

2017年度は、パネルディスカッションと土木偉人映像展「古市公威」の二部構成からなる「土木の日シンポジウム2017」と、土木界が保有する歴史的資料や図面、写真など、普段は目にすることができない各種コレクションを展示、公開している「土木コレクション2017 未来の東京を見つげに、土木を巡る。」を実施しました。

土木コレクション2017を訪れた方

48,000人



土木コレクション2017（新宿西口）



支部分会主催の行事

約250行事

約12.0万人が参加

活動項目

19

2015年に発足した若手パワーアップ小委員会は、活発に活動を行なっています。

数字は2017年度の活動です。活動項目19件、若手パワーアップ塾参加者60人、SNS投稿322件となりました。

ヤル気のある若手募集中!



若手パワーアップ小委員会

<http://committees.jsce.or.jp/kikaku03/>

若手パワーアップ塾の参加者 **60人**

SNS投稿 **322件**

2017年度の活動